細腕なんて言わせない!!

306

福祉事業は人のためですね

「ゼロからのスタートでした」と話す　長谷川　正江さん

■ロングリバー代表取締役
■いわき市明治団地七六ノ四

「大変なことが多かったですねぇー。それでも何とか11年。みんなの協力があってこそ、と思っています。これからまだまだ頑張ります」と話す長谷川さん

電話／〇八〇―六〇二二―五七七六

「私、無鉄砲なんですよ。大きな借金をしてこの仕事を始めたんです。経営は決して楽ではありませんけど、福祉事業は人のためですし、毎日、楽しくやらせてもらっています」

笑顔を見せながらこれまでの経過などを含め、柔らかく話し続ける長谷川正江さん（五六）。今の会社は、あの東日本大震災の年、二〇一一年五月に立ち上げた。社名の「ロングリバー」は、自らの名字をもじって付けた、という。

長谷川さんが初めて社会に出たときの職業は「ある会社の事務員でした」。会社員の夫の征美さん（五七）と結婚、子どもの育児に追われていた「三十一歳のとき、介護の職に就き、パートで訪問介護のヘルパーを始めました」。

その後、関連の資格を取得しつつ、農協の訪問介護関連の責任者として働いてきた。

折から、介護保険制度の改定などがきっかけとなり、大震災の年に独立を決め、自宅で関連事業を開始するとともに、「自宅の近所に空き地があったんで

要支援者スタッフに昨秋、カフェを開設

「カフェもオープンしたんですよ」

す。そこの土地を譲ってもらい、施設を建てました。費用はすべて金融機関からの借り入れで、です」と、苦笑い。

実はこの土地は本人が昔から「とても気になっていた土地」で、「東京に住んでいる医師の持ち物ということが分かり、福祉関係の仕事をしたいと申し入れたところ、『それなら譲ります』と快く言ってくれたんですよ」と、〝念願〟の土地確保の裏話を笑顔で披露。

「テークアウトもOK」

「ゼロからのスタート」を切った彼女は、元々のつながりなどをたぐりつつ、地道に営業を行い、およそ二年後には利用者も百人ほどに増加。今年で会社は十一年を迎え、デイサービス二カ所、ヘルパーステーション一カ所と、施設もグンと広がり、三人の子どもたちも協力。こうした施設のほか、長谷川さんは市内では珍しい、要支援、要介護認定を受けている人をスタッフとした社会参加型の施設も新規開設に踏み切った。

昨年十月、内郷御厩町にオープンした、〝にぎらないおにぎりカフェ〟の「ふくろう」と、「デイサービス福老」。現在、同サービスの五十代から九十代までの九人が有償のボランティアとして交代で同カフェの調理に励んでいる。

「作っているのは、〝企業秘密〟のおにぎり、チーズケーキ、そして唐揚げですが、改良して八種類かな。利用してくれるのは近所の人や一般のほか、テークアウト、予約もあります。障がいを持った人にも楽しく働いてもらいたいんです」と、新設の理由を話す。

これまでの一連の事業について終始にこやかに話す長谷川さんだが、人知れずの苦労も盛りだくさんだったようで、「金銭面でもいろいろありました。やめようと思ったことも。ですが、皆さんに後押しされて」と、真摯（し）に語る

その一方、「政治も福祉もこれから先、不安はあります。昨今はありえないことが起こっているという現実もありますし。コロナ禍の今、中でも、若い人の中にはコミュニケーションが取れない人もいるようで…。心配ですが、私は今の仕事にこれからも頑張りたいと思っています。」と言って大きく胸を張った。

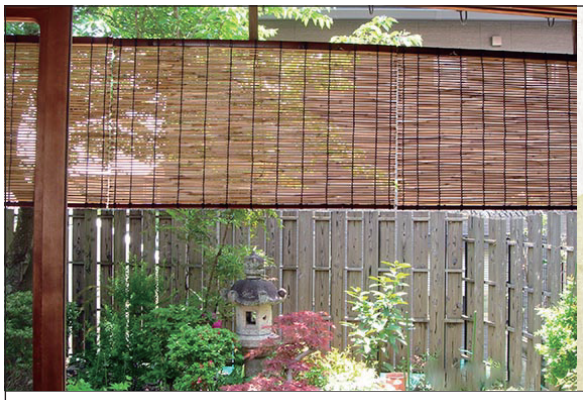
プロフィル

はせがわ・まさえ

1966年11月29日生まれ。平出身。「経営はやはり厳しいです。従業員は正規、パート含め21人。母親、子どもたちにも助けてもらっています」。「カフェの唐揚げはサイズと味が自慢です」と、PR。休日は夫の征美さん、愛犬とともに市内外の神社を巡り、御朱印を収集中。得意な料理は「昔は親子丼。今は朝食とお弁当の当番です」。A型

※このコーナーは隔月掲載です。

■お知らせ＝このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。



京都の老舗

西河竹工芸展

会期 令和四年六月三十日（木）～七月五日（火）

京都・西河プロフィール

天保2（1831）年創業。以来、竹芸ひと筋。葦や籐などの天然素材を活かしたオリジナリティーに富んだ作品を製作しています。

有限会社 小野美術 営業時間 午前10時～午後6時（最終日は午後5時閉場）

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F ☎0246-35-0383

HP:http://onobijutsu.jp e-mail:onobijutsu@sirius.ocn.ne.jp